

～オリンピックに学ぶ、「日常」の大切さ～



暦の上では春を迎えましたが、週末は大雪に見舞われ、校庭は一面の銀世界となりました。そんな中ですが、イタリアで開催されているミラノ、コルティナオリンピックでは、日本の選手が熱い戦いを繰り広げています。メダルを胸にする選手も、メダルに届かなかった選手も、一滑り、一跳びに4年間の思いを込め、自分を信じて全力で競技に挑む姿は、私たちに感動とともに日々の努力の大切さを教えてくれます。

学校生活でも同じではないでしょうか。4月に新しい教室、新しい友達とスタートを切ってから約11か月。子供たちは、初めて学ぶ漢字や計算等の学習に意欲的に取り組み、友達と助け合い、時にはぶつかり合いながら過ごしてきました。その一日一日はアスリートのトレーニングのように、自分を成長させ、「自信」につながる大切な積み重ねの日々だったはずです。毎日元気に挨拶をすること、当番の仕事をしっかりやり遂げること、友達の話当真剣に聞くこと。これら日常の当たり前を積み重ねてきた時間は、着実に子供たちの心の中の根を太く、深くしてきました。

2月は今の学年のまとめの月でもあります。オリンピック選手が最後の一秒まで諦めずに全力を出し切るように、子供たちができなかったことに目を向けて、あと少しだけ努力してみる、そんな気持ちをもてるよう、支援していきたいと思います。そして、3月には、「自分はここまでできるようになった」と自信をもって次の学年に進んでほしいと思います。

ご家庭でもぜひ、オリンピックの話題とともにお子様のこの一年の「日常の頑張り」を認め、言葉にして伝えてあげてください。

保護者の皆様には引き続き、教育活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

校長